

1～4号機は燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況やさまざまな取組みをお知らせします。

山林火災に備えた訓練を実施

11月7日、当所構内のグラウンドにおいて、大規模な山林火災に備えた訓練を富岡消防署、福島県消防防災航空隊、当社および協力企業の合同で実施しました。

当社は、引き続き関係機関と連携を図り、山林火災への対応力の向上に努めていきます。

【訓練内容】「当所周辺の山林から出火し陸上からの消火活動が困難」との想定で、富岡消防署が県に防災ヘリコプターを出動要請したケースでの対応を確認しました。

- ヘリポートの準備、周辺の放射線量の測定、消防車の誘導
- 構内消火栓からヘリの散水用タンクへのホース接続、送水手順の確認



グラウンド（ヘリポート）に着陸した防災ヘリ



散水用タンクへのホース接続・送水手順の確認

溶接型タンク、福島第一原子力発電所へ輸送

10月27日および11月15日、当所専用港にて保管していた溶接型タンク（福島第一原子力発電所で発生する水の貯蔵用）計7基を、専用船で福島第一に輸送しました。

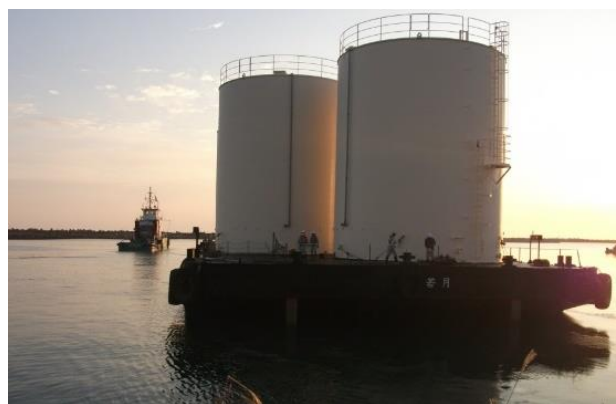
タンクは1基あたりの総重量が約70トンにもなるため、大型クレーンを使って船への積み上げを行いました。

福島第二は、福島第一に近く、港湾設備を有しており、技術要員も常駐しています。

今後も、地理的近接性を活かしながら、福島第一の廃炉作業を支えてまいります。



大型クレーンによるタンクの積み上げ



福島第一に向けて出港する専用船

発電された電気は「まちづくり」へと 檜葉町

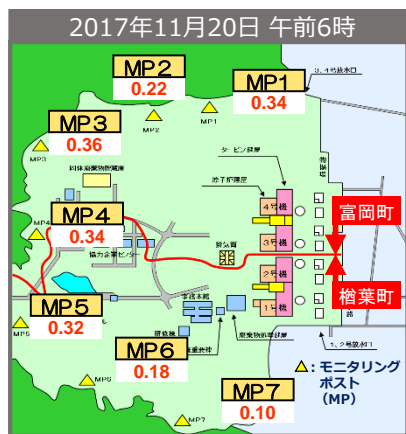
11月1日、檜葉町のまちづくり会社「ならはみらい」などが出資した合同会社「檜葉新電力」は、同町波倉地区に整備した「波倉メガソーラー発電所」の運用を開始しました。発電した電気は当社の送電設備に連系され、その全量を当社が買い入れてしています。



現地のパネル表示 (11月6日午後2時頃撮影)

売電による利益の一部は「ならはみらい」を通じて地域コミュニティの再生などの「まちづくり」に活用されます。

発電所周辺の空間線量率



単位は、マイクロシーベルト毎時

参考データ

原子力規制委員会
放射線モニタリング情報より
(2017年11月20日午後0時)

富岡町
文化交流センター
(富岡町役場敷地内)
0.188
マイクロシーベルト毎時

檜葉町
檜葉町役場
0.084
マイクロシーベルト毎時

発電所データBOX

福島第二原子力発電所で働く人は2,473人※です。(2017年10月1日現在)

	東京電力HD	協力企業	合計
県内	404人	1,691人	2,095人 (85%)
県外	45人	333人	378人 (15%)
合計	449人	2,024人	2,473人 (100%)

※ 1日当たりの入構者数は約1,200~1,300人

7年ぶりに開催、富岡えびす講市

富岡町



11月11,12日、富岡町曲田地区で「富岡えびす講市」が開かれました。「えびす餅投げ・抽選会」では、町内で今年収穫したもち米を使いふたば未来学園高校の生徒が手作業で丸めた紅白の「祝い餅」がまかれました。



当社社員も駐車場整理などのお手伝いに参加させていただきました。

燃料の保管と冷却状況

- 燃料はすべて、1~4号機の使用済燃料プールで保管しています。プール水温度は約30℃で管理し、常に監視しています。
- プールの冷却が停止した場合、構造体(鉄筋コンクリート)の強度を維持するため安全上十分に余裕を持たせた設定温度(65℃)に達するまで5~7日と評価しています。

	1号機	2号機	3号機	4号機
燃料の保管数	2,534体	2,482体	2,544体	2,516体

■編集後記

10月21日に再開した富岡駅に行ってきました。

駅の売店「さくらステーション KINONE」では、店内で電車やホームを眺めながら食事をとることもできます。

Cafe Amazon (川内村) のコーヒーも飲めますよ。【関】



福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は燃料の安定冷却を継続してまいります。

ご質問・ご不明な点がございましたら、こちらまでお問合せ下さい。